おすすめ本フェア

フォーラム　横浜　検索

いまどきの家族模様

水無田気流さん選書　「夫婦の関係」

2016年2月

	書名	著・編者名	出版社	出版年	分類
1	親密性の変容	アンソニー・ギデンズ	而立書房	1995	C11シ
2	近代家族の形成	エドワード・ショーター	昭和堂	1987	B321キ
3	21世紀家族へ ［第3版］ 家族の戦後体制の見かた・超えかた	落合恵美子	有斐閣	2004	B321ニ
4	愛は遠く離れて グローバル時代の「家族」のかたち	ウルリッヒ・ベック　ほか	岩波書店	2014	B32ア
5	セカンド・シフト　第二の勤務 アメリカ共働き革命のいま	アーリー・ホックシールド	朝日新聞出版	1990	B33セ
6	お母さんは忙しくなるばかり 家事労働とテクノロジーの社会史	ルース・シュウォーツ・コーワン	法政大学出版局	2010	D111オ
7	家事と家族の日常生活 主婦はなぜ暇にならなかったのか	品田知美	学文社	2007	D111カ
8	家族のリストラクチュアリング 21世紀の夫婦・親子はどう生き残るか	山田昌弘	新曜社	1999	B321カ
9	仕事と家族 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか	筒井淳也	中央公論新社	2015	B21シ
10	稼ぐ妻・育てる夫 夫婦の戦略的役割交換	治部れんげ	勁草書房	2009	B33カ
11	夫婦格差社会 二極化する結婚のかたち	橘木俊詔 迫田さやか	中央公論新社	2013	B33フ
12	シングルマザーの貧困	水無田気流	光文社	2014	B32シ
13	〈進歩的主婦〉を生きる 戦後『婦人公論』のエスノグラフィー	中尾香	作品社	2009	E161シ
14	少子化時代の「良妻賢母」 変容する現代日本の女性と家族	スーザン・D・ハロウェイ	新曜社	2014	B321シ
15	主人在宅ストレス症候群」の解消・予防法 夫がうっとうしい妻たちへ	黒川順夫	かもがわ出版	2012	B33シ
16	（お）もろい夫婦　平田俊子詩集	平田俊子	思潮社	1993	D2412オ
17	女の絶望	伊藤比呂美	光文社	2008	イ

選者プロフィール

水無田　気流　（みなした　きりう）

1970 年生まれ。詩人・社会学者。詩集に『音速平和』（中原中也賞）、『Ｚ境』（晩翠賞）。評論に『黒山もこもこ、抜けたら荒野　デフレ世代の憂鬱と希望』（光文社新書）、『無頼化した女たち』（亜紀書房）、『シングルマザーの貧困』（光文社新書）、『「居場所」のない男、「時間」がない女』（日本経済新聞出版社）。本名・田中理恵子名義で『平成幸福論ノート』（光文社新書）など。

◇個人ブログ　http://d.hatena.ne.jp/minashita/

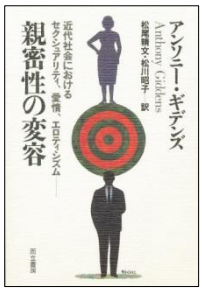
◇ツイッター　https://twitter.com/nonaioyaji

水無田気流さんからの推薦図書メッセージ

夫婦とは難しいものである。そう言うと、おそらく多くの人は「うんうん」とうなずくことだろう。なぜか。それは、「夫婦とはかくあるべし」という理想と現実の落差に起因すると考えられる。そもそも夫婦は「愛情」を紐帯とすべし、となっているが、そうなったのは近代化以降の話だ。「たった 1 人の相手と、永遠に愛し合うべし」……を基調とする「ロマンチックラブ・イデオロギー」は、現実的にはかなり無理がある。この無理を通した犯人は誰か！？　を説明した本が、１、２。3 はこの問題について日本の家族に関し詳解。 4 は国際カップルや結婚移住などグローバル化時代の「遠距離愛」を論じたもの。家事育児など無償労働と有償労働の双方を引き受ける妻の負担を論じたのが 5 。6 は家電製品等が普及しても一向に減らない主婦の家事労働の歴史的変遷を論じたもの。7 はその日本版。 8 は夫婦の今後を論じ、 9 は最新の夫婦の就労と家事のあり方を検証。10 は性別分業逆転型夫婦への聞き取り調査書。11 は同類婚志向が生み出す世帯間格差を詳解。12 は離婚にまつわる法や DV などの実態についてのデータを網羅的に紹介。13 は日本の夫婦の愛情関係の変遷について。14 は日本の妻の家庭生活満足度の低さを検証。15 は医師の立場から夫が病因となっている妻の不調を検証。16 は別居中の夫を題材とした詩集。17 は夫婦、愛、老い、セクシュアリティ等についての講談調エッセイ。

1、親密性の変容　　アンソニー・ギデンズ　著　　松尾精文・松川昭子　訳

近代社会におけるセクシュアリティ、愛情、エロティシズム　　（而立書房）　1995年



女性と男性が性的にも感情的にも対等な関係が実現できるとして、ロマンチック・ラブ（一対一の男女間で結ばれる純愛）という理念が高まっています。それに伴い、生殖という必要性から解放されたセクシュアリティが出現します。このような変化は私たち自身、社会にどのような影響を与えるのかを問います。

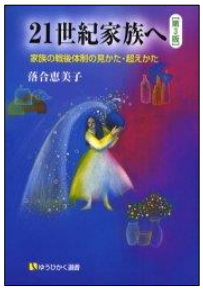
2、近代家族の形成　　エドワード・ショーター著　　田中俊宏・岩橋誠一・見崎恵子・作道潤　訳

（昭和堂）　1987年

過去3世紀を通じて普通の男女の典型的な生活はどういうものかを見ることにより、家族の変遷を探る本です。ロマンチック・ラブ（純愛感情）、母性愛、家庭愛は普遍的なものではなく、資本主義や個人主義の発達した近代による産物であることを、あらゆる記録を駆使して検証した家族史です。また、今後の近代家族の行方も探ります。

3、21世紀家族へ　　落合恵美子　著

［第3版］　家族の戦後体制の見かた・超えかた　　（有斐閣）　2004年



家族愛の絆で結ばれ、プライバシーを重んじ、夫が稼ぎ手で妻は主婦と性別分業し、こどもに対して強い愛情と教育関心を注ぐような家族が「近代家族」です。私たちが当たり前だと思っていた家族は、実は近代という時代の産物にすぎません。当たり前だと信じてきたことが絶対的なものでないと理解すれば、当たり前でないようなことが次々と生じてくる事態を時代の変化として冷静にとらえることができ、未来への展望や現実的処方箋も生まれてくると著者は言います。語り口調で、近代家族論、少子化や核家族化などをわかりやすく解説します。

4、愛は遠く離れて

グローバル時代の「家族」のかたち

ウルリッヒ・ベック、エリーザベト・ベック＝ゲルンスハイム　著　伊藤美登里　訳

（岩波書店）　2014年

グローバル化は経済や政治や労働市場において劇的な変化をもたらしましたが、愛や家族生活についてはどのような変化をもたらしたのでしょうか。国際カップル、結婚移住、家事労働移民、代理母・・・地理的遠さと文化的遠さを意味する「遠距離の愛」をキーワードにさまざまな家族のかたちを論じます。

本の紹介は、主に帯・まえがき・あとがきなどを参考に作成しています

5、セカンド・シフト　第二の勤務

アーリー・ホックシールド　著　田中和子　訳

アメリカ共働き革命のいま

（朝日新聞出版）　1990年

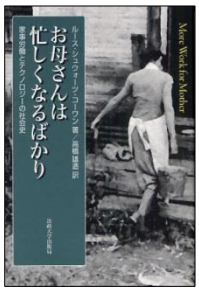
「男性は職場の仕事が終わればそれで仕事は終わりだが、女性には家に帰れば家事育児という〈第2シフトの仕事〉が待っている」と著者は言います。男女ともに家庭の外に働きに出ていく新しい時代に、働く女性は赤ん坊と職場を抱えこみ、くたくたになるのでしょうか。職場が赤ん坊の面倒をみてくれるようになるのでしょうか。男性の日常生活の場に赤ん坊が姿を現すことのなるのでしょうか。仕事への野心は、子どもへの共感は、妻と夫の依存関係は、一体どうなるのか、10組の共働きカップルを長期追跡調査し、新しい時代の女性と男性のあり方を提唱します。

6、お母さんは忙しくなるばかり

ルース・シュウォーツ・コーワン　著　高橋雄造　訳

家事労働とテクノロジーの社会史

（法政大学出版局）　2010年



19世紀の工業化、20世紀の家事テクノロジーの進歩は、主婦の家事を本当に楽にしたのでしょうか。その進歩は既婚婦人が職につきやすいような影響をもたらしたのでしょうか。答えはNOだと言います。かつては夫や子ども、使用人に分担していた家事労働が科学の進化とともに主婦に集約されていく皮肉な過程、強固に残る「男女別領域」の観念、変化した家事の意味などを、社会史・技術史の視点から描く家事労働論です。

7、家事と家族の日常生活

品田知美　著

主婦はなぜ暇にならなかったのか

（学文社）　2007年

家電製品が整った家、手軽に買えるお惣菜が並ぶスーパーマーケット。主婦たちは「暇になったはずだ」と信じられていましたが、反して「暇にならなかった」と著者は言います。家電製品の普及は家事時間をほとんど減らしてはいなかったのです。それはなぜなのでしょうか。家事時間はどうやって決まるのか、主婦たちのライフスタイルの実態はどうなっているのか、戦後から現在へ、移り行く日本の家事の実態調査から分析します。家事の変遷から家族のゆくえを論じます。

8、家族のリストラクチュアリング

山田昌弘　著

21世紀の夫婦・親子はどう生き残るか

（新曜社）　1999年

「よりよい家族のあり方」は社会状況によって変化すると著者はいいます。少子化、未婚化、高齢者介護、パラサイト・シングルなど日本家族に生じているさまざまな問題はどれも従来の「サラリーマン−専業主婦」家族のリストラ（再構築）の必要を示唆しています。どのような方向にリストラされるべきなのか、リストラに際して、どのような対策が必要なのかを説きます。

本の紹介は、主に帯・まえがき・あとがきなどを参考に作成しています

9、仕事と家族　　筒井淳也　著

日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか　　（中央公論新社） 2015年

男性中心の労働環境のため女性が活躍しづらく、未婚化・少子化が深刻な日本。一方、「高負担・高福祉」を堅持したスウェーデンと「低負担・低福祉」路線に舵を切ったアメリカは正反対の国と思われがちですが、実は働く女性が多く、出生率も高いという点で共通しています。それはなぜか。国際比較という横向きに広い視点、そして長期推移という歴史的な視点から日本の「仕事と家族」のあり方をとらえ、目指すべき社会を考えます。

10、稼ぐ妻・育てる夫　　治部れんげ　著

夫婦の戦略的役割交換　　（勁草書房） 2009年

日本では、男性と同等の知力・能力を持った女性が、「家族」を理由にキャリアダウンしていくことが多くあります。一方、アメリカでは育児支援制度が乏しいにも関わらず仕事と育児を両立している夫婦が多くいると言います。本書はアメリカの専門職・管理職に就く女性とその夫のワーク・ライフ・バランスについて記します。特に共働きで子どもを持つ夫婦において、夫の家事・育児分担とそれが妻のキャリアに与える影響に焦点を当てました。彼らの実践するワーク・ライフ・バランスを通して、日本が抱えている課題を解決する糸口を見出そうとするものです。

11、夫婦格差社会　　橘木俊詔・迫田さやか　著

二極化する結婚のかたち　　（中央公論新社） 2013年

日本が格差社会化しているなか、本書は高所得の夫婦と低所得の夫婦との間の格差を論じます。格差を生み出している一因は、夫の所得額とは無関係に、働くか働かないかを決めている妻の影響力だと著者は言います。ともに高学歴、高職業、高所得の「パワーカップル」と低学歴、低職業、低所得の「ウィークカップル」の事例を検証するとともに、離婚や未婚、地域差まで視野を広げ、日本の夫婦の現状を探ります。

12、シングルマザーの貧困　　水無田気流　著

（光文社） 2014年

日本は、「個人」には個性的な生き方を推奨しつつ、「家族」には「普通」の同化圧力をかけ続けていると著者は言います。「家族」が大前提の社会制度の中で、あえて言えばシングルマザーは「あってはならない」存在とされ、それゆえに、社会環境のエアポケットに落ちやすい存在だともいえます。本書ではその理由や背景について改めて考えます。シングルマザーへの聞き取り調査を行い、彼女たちの辿った選択の背景を検証し、今日の日本社会の問題点をあぶりだします。

本の紹介は、主に帯・まえがき・あとがきなどを参考に作成しています

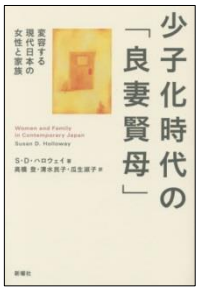
13、〈進歩的主婦〉を生きる　　中尾香　著

戦後『婦人公論』のエスノグラフィー　　（作品社）　2009年

1950年ごろから60年代にかけて、無名の女性たちが当時の社会状況やジェンダー秩序のなかで、どのように生きていこうとしていたのかを明らかにします。その手だてとして、女性雑誌『婦人公論』とその読者たちに焦点を当てました。戦後女性たちは、理念としての「男女平等」と現実としての「性別役割分業」のせめぎあいのなかで、いかに自分をとらえていったのかを愛読者と編集者たちへのインタビュー調査によって立体的に描き出します。

14、少子化時代の「良妻賢母」　　スーザン・D・ハロウェイ　著　高橋登・清水民子・瓜生淑子　訳

変容する現代日本の女性と家族　　（新曜社）　2014年



国際比較によれば、日本の母親は家庭生活に満足しておらず、子育てにも自信がもてないでいると言います。その理由は？本書は政府の家族政策を歴史的に見ながら、日本女性の結婚や子育てについての考え方・行動をインタビューを通して分析します。求められている母親の役割とそれに対して母親たちはどう向き合っているか、家族や夫との関係、結婚退職、再就職について、自分の親との関係が育児に与える影響などを母親たちの物語から読み解き、子育てしながら、幸せに生きられる社会への手がかりを探ります。

15、主人在宅ストレス症候群」の解消・予防法　　黒川順夫　著

夫がうっとうしい妻たちへ　　（かもがわ出版）　2012年

夫が家にいるだけで妻が病気になる―「主人在宅ストレス症候群」の名づけ親の精神科医による本です。人生80年時代、夫婦二人だけの期間が長期化し、夫婦の意識がずれたり、果ては熟年離婚も・・・。「主人在宅ストレス症候群」にかからないためにはどうすればよいか。妻が、もしこの症候群にかかったら、どのように治療すればよいのかを具体的に書きました。夫にも読んでほしい、今から始める「主人在宅ストレス症候群」対策マニュアルです。

16、（お）もろい夫婦　平田俊子詩集　　平田俊子　著

（思潮社）　1993年

「結婚したのもはずみなら別居したのもはずみ。他人（＝配偶者）と暮らすのはむずかしい。毎日となるとなおさらである。」―ある別居夫婦の愛と哀しみの実録モノ。夫婦関係は「おもしろい」けれども「もろい」という切実な認識から生まれた散文詩集です。強烈なブラックユーモアと軽やかなシニカルさを備えた現代詩です。

本の紹介は、主に帯・まえがき・あとがきなどを参考に作成しています

17、女の絶望

伊藤比呂美　著

（光文社）　2008年

「休日など夫婦二人でどこかへ出かけて、疲れて帰ってきたときに、自分が立ち上がってお茶を入れる奴隷根性に絶望しています。それをごくあたりまえの事のようにのほほんとしている夫のことも憎らしくてたまりません」－女の、女たちの、悩みを、不満を、ひとつに集めて表現する言葉は「絶望」。次々と寄せられる身の上相談を詩人兼回答者の「伊藤しろみ」が答えます。女の絶望と希望が詰まった本です。

本の紹介は、主に帯・まえがき・あとがきなどを参考に作成しています

主催：フォーラム（男女共同参画センター横浜）
フォーラム　横浜　検索

おすすめ本フェア推薦本は、貸し出しできます。ご利用方法は次のとおりです。

情報ライブラリ利用案内

男女共同参画センターの情報ライブラリは、横浜市内にあるフォーラム（男女共同参画センター横浜）、フォーラム南太田（男女共同参画センター横浜南）、アートフォーラムあざみ野（男女共同参画センター横浜北）の3館で資料の相互貸借サービスを行っています。3館の資料はどの館からも取り寄せて借りることができます。返却も3館すべて利用できます。

＊ ライブラリカードのお申し込み

カードを作れる人

個人カード　小学生以上で横浜市に住んでいるか、通勤・通学している人

団体カード　担当者（直接借りにくる人）が横浜市に住んでいるか、通勤・通学しているグループ、団体

＊貸出・返却

貸出　本、雑誌、ポスター　ひとり10冊（枚）まで、2週間借りられます。
ビデオ　フォーラムのみ、館内で視聴できます。
団体カードをお持ちの方なら、館外貸出可のビデオを3本まで、1週間借りられます。

返却　カウンターにお返しください。閉館時は、本と雑誌のみ、ブックポスト（フォーラム）に返すことができます。

テーマ別セット貸出について

おすすめ本フェアでご好評いただいた展示資料（選書リストを含む）を、すべてセットにして貸し出します。公共施設や図書館、学校、病院での展示に、またグループでの勉強会にもぜひ、資料セットをご利用ください。

貸出内容　展示するスペースにあわせて、セット貸出できます。

貸出期間　2ヶ月

貸出料金　無料（送料は、ご負担願います。）

ご希望があれば、展示のアドバイスも承ります。
お気軽にご相談ください。

詳細はお問い合わせください。
男女共同参画センター横浜　情報ライブラリ
TEL　045－862－5056

●フォーラムは、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会が管理運営する横浜市の男女共同参画センター3館のうちの1つです。
●パソコン(スマートフォン)向けにメールマガジンで講座・イベント情報をお届けしています。登録は協会の HP または QR コード（右）から